

川崎市直下の地震(冬の18時)の被害想定

●急傾斜地崩壊	314箇所	●負傷者	15,822人
●建物全壊数	22,329棟	●上水道	約35万世帯断水(3日目まで)
●建物半壊数	49,798棟	●下水道	約28万世帯で機能支障(発災直後)
●出火	243件	●電力	約40万件で停電(発災直後)
●延焼焼失	16,395棟	●避難者	361,077人
●死者	819人	●帰宅困難者	34,616人

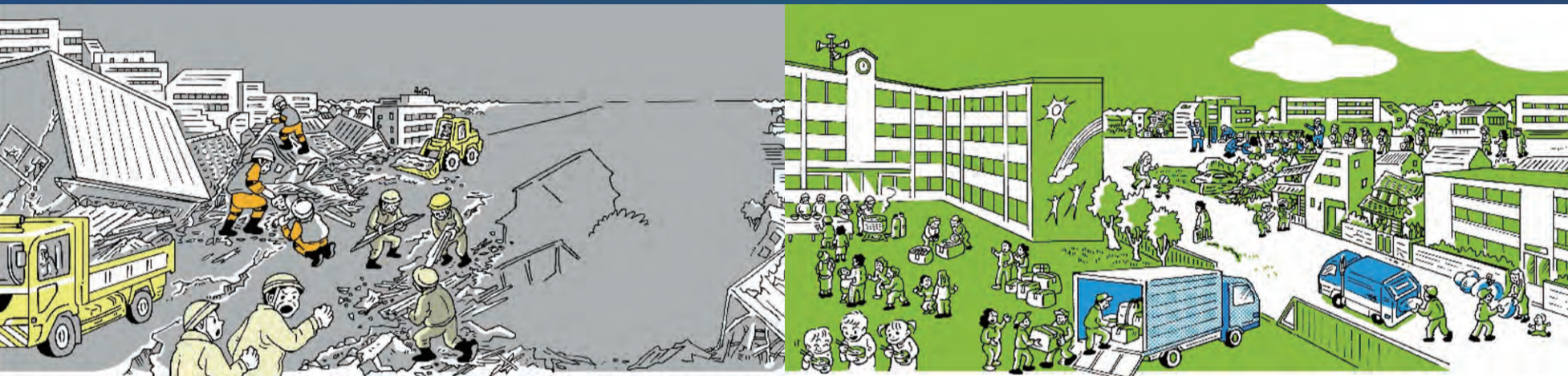


被害想定調査

川崎市に大地震が起きた日

ポイント

●大地震はいつ発生するか分かりません。そのため、発生時の季節や天候、曜日や時刻などの条件をいろいろ考えてみると、「自分が直面する状況」や「自分が取るべき行動」も変わります。そのように考えを膨らませることで「新たに必要な備え」が見えてきます。



地震発生の翌日になっても、市内では震度6弱の大きな余震が発生するなど予断を許さない状況のままです。家屋を失い、長期の避難が必要となった市民は10万人以上にのぼり、避難所での生活を余儀なくされています。一方、自宅の安全が確認できたために、避難所から自宅へ帰る人も現れはじめています。

余震は相変わらず続いています。火災はほとんど鎮火しました。避難所でも、避難所運営会議のメンバーだけでなく、避難者自身も一緒に運営に加わりはじめました。一方、多くの市民はライフラインに支障がある中、自宅で生活(在宅避難)をしており、備蓄品が底をつく家庭も徐々に増えてきました。

1日後 (~24時間)

3、4日後 (~96時間)

道路啓開作業(緊急車両等の通行路確保)

道路が通れなければ、救助活動や被災地外からの応援や支援物資が届きません。

避難所支援

受援(他都市・他機関の応援受け入れ)

応急給水拠点の開設

避難所の開設には一定の時間を要します。発災直後から利用できるわけではありません。

勤務先等から帰宅 徒歩での帰宅ルートの確認などは確認できていますか?

避難所運営 (在宅避難できない方は避難所生活) 避難所での生活や運営について知ってますか?

準備は整っていますか?(携帯・簡易トイレ、生活用水、着替え、灯り対策、寒さ暑さ対策等)

最低でも1週間程度は自宅の備蓄品等でのく必要があります。家族分の備えはできていますか?(食料、飲料水、トイレ用品、衛生用品等)

応急給水拠点の場所や何を持っていけばよいかなど確認できていますか?

水・支援物資の確保